

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校(定時制) 学校長名：松本泰幸

めざす学校像 育てたい生徒像	生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語る学校の3つの基本姿勢のもと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 生徒一人ひとりを生かす丁寧な支援や指導に努める。 2 規律ある生活習慣を身に付けられるよう育てていく。 3 自ら学ぶ意欲と考える力の育成を図る。

中期的な目標	○支援、指導のための情報共有、校内のサポート体制の確立と外部機関との連携の充実 ○規律の中から生まれる自立心を基盤として、自主・自律の精神のもと、自ら学ぶ意欲を高め、学び続けられる力を育成する。 ○教員のICT活用能力の向上、指導内容や授業方法の工夫と改善及び教材の開発・作成
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	自己評価及び学校関係者評価の結果を、インターネットのホームページによって保護者をはじめ広く公表している。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					令和3年度 評価 (3月4日 現在)		
重点目標					評価項目の達成状況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	達成度	次年度への課題と改善方策	
1	・個々の生徒が抱える学業・社会生活等の課題を解決するため、適切な支援をする必要がある。	・学習面や生活面の課題に対するサポート ・進路指導の取組	・生徒の状況に応じた支援を行うため、学校全体で情報を共有し、組織的に取り組む。 ・生徒一人ひとりの就業状況を把握する。 ・将来の自己実現に向けた意欲の向上を図る。	・生徒の情報をまとめ、共有するとともに、支援の要する生徒について個別ファイルが作成できたか。 ・進路指導充実のための学年行事を年2回以上実施したか。また、個人指導の充実が図られたか。	A	支援を要する生徒についてつなぎ愛シートなどを活用した情報共有のための個人カードの作成ができた。 教員評価 88.8% 各学年で進路指導に関する行事を2回以上行えた。特にキャリアパスポートの作成や職業レディネステストなど将来の進路を考える機会を増やした結果、自分の将来を考える動機付けとなった。生徒の93%が進路指導の充実に満足している。	全教職員で情報共有を図るとともに有効に活用することが課題であり、中学校との連携を深め個々の生徒の状況の把握に努めることで、より充実した支援が可能となる。 進路実現のための動機付けは図られており、生徒が自身の将来を考えられるよう教員は生徒の就業状況等をより一層の把握に努める。
2	・不登校や、引きこもりなど経験した生徒の支援のため、相談活動の充実が必要である。	・生徒指導の取組 ・特別活動の取組	・生徒一人ひとりに応じた支援を保護者と協力し行う。 ・スクールカウンセラーを活用し、個々の生徒のカウンセリングを実施する。 ・生徒会行事の充実と生徒の主體的な企画運営を支援する。	・生徒や保護者の個別の相談回数を増やせたか。 ・全生徒にスクリーニングを実施できたか。また、その分析結果に基づきカウンセリング等を必要に応じて実施できたか。 ・生徒会行事への生徒の参加率が向上したか。	A	年度当初生徒全員にスクリーニングを実施し、カウンセリングが必要な生徒とその保護者も含め、年間を通じて継続的支援の充実を図ることができた。 コロナ禍において学校行事の内容の変更があったが、生徒総会や球技大会などは多くの生徒が参加し充実したものとなった。 教員評価 84%	保護者を含めたカウンセリングの充実が図られえた。今後は支援委員会を組織するなど、取組の充実発展に努力する。 コロナ禍でも可能な行事とは何か考え、年間行事を入念に計画して生徒会活動の充実を図る。
3	・教材の工夫や学習への動機付け等、生徒の実態に応じた授業改善の取組を推進する必要がある。	・基礎学力の定着を図る ・ICTの活用 ・実習、実験などを通じ、成功体験を重視する	・小テスト等を効果的に活用する。 ・生徒の実態に応じ、少人数学級の展開や1人1台パソコンを活用する。 ・実技や体験などを通じ、興味のわく、わかりやすい授業づくりに努める。	・小テスト等を通じ授業で取り扱う基礎・基本の定着が図れたか。 ・1人1台パソコンを使った効果的な授業を月1回程度実施できたか。 ・授業評価における、「わかりやすさ」や「工夫」に対する達成度が75%以上であったか	A	小テストに代わるプリントを併用することなど教員の工夫により、基礎学力の定着を図ることができた。また実験のための調べ学習や結果発表のための1人1台PCを使い取組むことができた。 生徒による授業評価において、教員の丁寧な説明、適度な難易度、板書の丁寧さなど、わかりやすい授業と生徒の評価が高く80%であった。	今年度の取組の課題を踏まえ、基礎学力の一層の充実を図り、支援を要する生徒の個別最適化された学びがより充実するよう授業改善に取り組む。

学校関係者評価	
令和4年2月18日 実施	
①	学校運営協議会委員6名に依頼しAからEの5段階評価のアンケート調査を行った。 <主な項目とその結果> ・目指す学校像生徒像がわかりやすい A50.0% B33.3% ・生徒に対しわかりやすく充実した授業か A33.3% B50.0% ・生徒に合った授業の工夫や指導ができていないか A50.0% B33.3% ・基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせる指導が適切か A33.3% B33.3% ・進路に関する情報提供に努めている A50.0% B50.0% ・進路選択の指導は適切か A50.0% B16.7% ・学校行事は充実しているか A50.0% B16.7% 学校運営協議会委員による評価はほとんどの項目においてA,B合わせると80%と高評価である。 「生徒の授業等の出欠が天候に左右されるということに驚いた。」「支援の必要な生徒の学びの特徴を理解し授業改善を積み上げていくPDCAを大切にしてください。」など、意見を頂いた。
②	生徒評価について 授業ではわかりやすく丁寧な説明や工夫が感じられる、生徒指導もよく取り組まれている、生徒の気持ちや意見を受け止めてくれていると80%を超える高評価であった。 また校舎の清掃など行き届いているかについては、75%であった。